

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 2 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500091		
法人名	社会福祉法人 たちばな福祉会		
事業所名	たちばな苑グループホーム		
所在地	広島県呉市倉橋町14948番地 (電話) 0823-54-1516		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500091-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年1月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

たちばな苑グループホームは広島県の最南端（呉市倉橋町）にあり、温暖で景色の良い自然環境に恵まれたホームです。広い敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等が併設され行事クラブ等を一緒に行っています。また、地域の行事にも参加し交流をはかっています。現在はコロナ禍において中止しております。グループ独自では、天気の良い日は散歩に出かけ山羊に餌をあたえたり、四季折々の草花を鑑賞し楽しんでいます。毎月一度は管理栄養士と一緒に入苑者様の希望にそっておやつ作りを行ったり、誕生者がおられる時は誕生会を行っています。健康管理は朝・夕のバイタルチェック、入浴時の観察を行い、体調の悪い利用者は併設特別養護老人ホーム看護師と連携し、早期発見、早期治療に努めております。職員は各担当部屋の整理、整頓、話し掛け等を行い御家族様には近況報告を毎月の「えくぼ」の広報誌にて確認して頂き一人ひとりに寄り添ったケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広い敷地内には山羊や四季折々の草木やベンチがあり、至る所でゆっくり鑑賞しながら過ごせるスペースがある。法人全体の理念「和顔愛語、福祉は愛なり、人なり、心なり」を念頭に笑顔で接し、利用者の意向を第一に考え、法人内の職員間の声をかけ合って一つ一つのケアに検討・討議を重ねている。法人内で1日2回法人内の管理者が集まり、その日の経過状況を共有し、事業所の垣根を超えて相談・協力できる体制を整えている。利用者からの発した言葉など一人ひとり細かく記録しており、意向の把握や情報共有を図っている。毎日多彩な日替わりのレクリエーションが行われている。嗜好調査などで日々の食事、おやつ作り、行事食などイベントを楽しめるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念としては、「和顔愛語、福祉は、愛なり、人なり、心なり」を掲げています。又引き継ぎ時に理念を唱和し理念に沿ったケアが出来る様心掛けています。	法人の理念を事業所理念とし、法人内代表者と事業所出勤者が朝礼後にそれぞれ唱和している。毎日の業務で理念に沿えない時は各自で理念を合言葉に注意し合い、振り返っている。職員間でそれぞれ個別の業務目標を掲げ、12月に年間の目標の振り返り、新年度に新たな抱負を発表し、各自が取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症拡大防止の為、地域の行事参加は難しいですが、面会はパーテーションをして行い、少しずつ緩和しています。運営推進会議も開催できない状況ですが、苑の広報「たちばな苑便り」は地域への配布を行い挨拶や情報交換等行い、地域の一員として参加しています。	散歩時に地域の方と話したり、差し入れとして野菜など頂くことがある。年2回公民館主催の家族介護者教室に職員が講師として参加している。地域の方に事業所のことを知ってもらうために高齢者の家や地元の店や掲示板に広報誌を配布・掲示し、周知してもらう取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で中止していた買い物支援やドライブも地域の人々の理解を深めるため出かけていく計画を進めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は行えていませんが、取組等を報告したり、アンケート等を行い、アドバイスを受け、質の向上に努めています。	コロナ禍後は書面会議となり、市担当者、地域包括支援センター、自治会長、家族代表、民生委員に送付し、年2回家族に取り組み状況などを書面で送付し、意見聴取している。現在は市担当者に意見を伺いながら面談による会議再開を検討している。	現在は運営推進会議が書面会議となっているが感染状況が落ち着き対面での会議を行い、議事録など参加出来ない利用者家族に提供することでグループホームの運営状況が周知でき、意見や提案が出しやすくなる仕組み作りにより、家族や地域との連携が深められるよう期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議が開催されず、毎回資料作成し送付させていただいています。	市担当者とは管理者が主に電話でやり取りし、顔馴染みの関係を築いている。市町からの感染状況や研修会などの情報は法人内で共有しあったり、法人内の認定調査など来所時には事業所に寄ってもらうなど積極的に情報収集している。	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設特養の勉強会に参加し、身体拘束の無いケアを心がけています。玄関の施錠は必要な時のみ時間を決めて行っています。委員会で身体拘束利用者の検討を行っています。	法人内で身体拘束防止委員会があり、年2回の研修と3か月毎の定例会議、必要時に委員会で対応を協議している。利用者に様付けで呼称し標準語で声かけ、不適切な言動があれば職員間で注意している。新人職員には管理者が1か月間付き添い、身体拘束防止の指導を行い、不適切なケアをしないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	併設特養の勉強会に参加しています。虐待が見過ごされることがないように注意し、小さな事から防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設特養の勉強会に参加しています。利用者の中に後見人をつけている人もいますので、ご家族と同様に連絡を密に支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分に説明し、質問にはわかりやすく丁寧に対応する事を心がけています。入居前はご本人だけでなく家族の心配や不安も大きいため、できるだけ心配や不安を解消し入居できるよう対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しています。また電話でご家族のご意見をお聞きしながら、解決し納得して頂いています。グループホーム内にジュースの自動販売機を設置したり又希望者には新聞の購読の為配達してもらっています。	家族の要望は面会時や電話連絡、年1回家族アンケート、毎月の広報誌と一緒に利用者の状況を記した手紙と意向を伺う手紙を同封し郵送している。利用者の要望は生活歴や普段の会話で聞き取っている。意見から自動販売機の設置や新聞の購読など反映した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議、月一回の苑長とのミーティング、職員での毎月のミーティングを行っています。	毎月の法人職種会議、苑長との会議、事業所内の職員会議で意見できる場を設けている。年1回職員アンケートを行い、管理者と面談する機会を設けている。職員が働き易いよう意見を取り入れ、介護ロボット導入や敷地内移動で雨風が防げるよう屋外廊下に屋根を設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務目標があり達成にむけて主任が指導したり職員同士でアドバイスしたりして、やりがいのある職場を目指しています。各自が助け合って、向上心を持って、いかにモチベーションを保っていかるかも考えて取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量に応じた研修の機会を確保し法人全体で取り組んでいます。又資格取得の促進にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修を通して同業者との意見交換の機会を持ち、課題の見直しをしてケアの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず施設の見学、相談時に不安や要望などを確認し把握したうえで、入居申込や事前訪問を行い、入居環境を整えるようにします。本人、家族とのコミュニケーションを大切にして安心して入所できるようにします。		

自己評価	外部評価	項 目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人、家族の心配や不安、要望等を傾聴し対応しています。入所生活に入り、うまく馴染めるかに重点を置き、担当ケアマネージャー等からも情報を収集しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族、看護師、ケアマネージャー、担当ケアマネージャー、サービス事業所と連携を持ち対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームであるため、入所者の残存機能を生かし、掃除、食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、クラブ、散歩等を一緒に行い本人の出来る事をしてもらい張りのあるその人にあつた支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	以前の様に、面会時にご利用者、ご家族、職員も入り話をよく聞き、お互いの理解を深めていける様緩和をしていきます。家族からの電話は個別に取り次いだり、電話対応を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	中止していた併設特養の行事、クラブ参加、地域の行事、買い物、ドライブ等に参加して顔馴染みの人達と交流を少しずつ図っています。又、生活環境が変わらないように家庭で使っていた寝具等を使用しています。また入所者の思い出話や過去の話は傾聴するようにしています。	コロナ禍で馴染みの場所へは行けていないが、近くの神社への散歩時に地域の方と会い、野菜など差し入れを頂き、食事やおやつとして提供している。家族には広報誌と一緒に施設での状況を手紙で同封している。手紙や電話での問い合わせがあれば都度利用者につなげて関係性が途切れないよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様の性格、行動を把握しより良い関係作りに努めています。共同生活の場、リビングで食事、おやつ、誕生会、レクリエーション、体操等しながら利用者様同士の交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	案内状を出しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを精一杯引き出すように生活歴、対話を密にしたり、個別ケアに努めています。暮らしの中から得られる情報をケアにつなげ利用者主体の暮らしを支援しています。	利用者には生活歴や日々のケア時の聞き取り、家族には電話やアンケートなどで意向を把握している。利用者が会話の中で返答したことを日付と内容を記録している。会話記録をまとめた書類は他職員がいつでも見られるようにしており、誰でも経過や状況説明ができる体制を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族、居宅サービス事業所と連携を取り、これまでの生活歴や経過、人物像等の情報を収集し職員間で共有し経過などに努めています。職員も担当部屋を持ち、毎月ご家族には状況をお知らせしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌に毎日の状況を記録しています。出来る事、出来た事は継続できるように話しかけています。又、体調変化の早期発見に努めています。毎日同じ時間にバイタルを測定し、体調の変化に気をつけています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、職員、管理者などで話し合い本人が望むことや残存機能の維持向上を図りながら最良のケアができるように計画をたてています。又、その人に合ったリハビリの話しかけを行っています。</p>	<p>職員から情報を集めて計画作成担当者が原案を作成している。毎日モニタリングを行い、半月毎に計画の見直しを行っている。法人内の専門職に意見を聞く関係を築いている。体重減少の方に対して水分記録表をすることで職員間の意識付けを行い、栄養士と相談し高カロリー食を提供することで改善した事例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入所者の日々の身体的、精神的状況や様子、状態、生活状況を日誌、引継ぎノート個別記録に記入しミーティングを行い検討し、計画を立て、見直し実践しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>生活リハビリ訓練、グループホーム①、②合同で誕生会、おやつ作り、レクリエーション等で利用者同士の交流を図り楽しんで頂いています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>以前は、運営推進会議を通じて民生委員の協力を得たり、消防署の立会いのもとで二か月一回防火訓練を行っていましたが、コロナ禍の為にできていませんでした。今後は徐々に行っていく予定です。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日、朝、夕にバイタルチェック、入浴時の身体観察を行い、体調が悪い時には家族に連絡をし、受診の希望があれば併設特養看護師に連絡し、委託医に診察支援を受け、適切な医療を受け、家族に報告し、早期発見、早期治療に努めています。</p>	<p>利用開始時に今までのかかりつけ医を継続できることや委託医との連携体制を説明している。週1回委託医の訪問診療がある。日々の健康観察や医師への連携は法人の看護職員が対応している。協力病院以外は基本家族対応だが難しい場合は職員が柔軟に対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタルチェック、日常生活の関わりの中で体調の気づきを併設特養看護師に伝え、相談し、本人、家族の希望を聞き受診の支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は医療機関に情報を提供し、退院が決まればカンファレンス情報を提供してもらい退院後のケアに備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族にとって最善な終末期ケアが出来る様、併設特養看護師と連携を図りながら家族に事業所で出来ることを説明し、納得いただけたら、家族、職員、看護師と方針を共有し支援に取り組みます。	利用開始前や医師より必要性がある時には家族に説明し、看取りの希望があれば対応している。実際には百歳近い利用者の方が老衰で馴染みの場所での最期を希望され対応した。職員自体が優しく声をかける、ベッド回りを綺麗にする、負担がないよう複数で介助し、口腔ケアの大切さなど取り組んだ事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	併設施設の勉強会に参加し、応急処置、初期対応に取り組んでいます。必要に応じて職員を集めて知識・技術の習得に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の消防署の指導のもと併設施設と合同訓練を行っています。年一回の夜間訓練は地域の消防団にも参加してもらって行っています。防潮堤の設置で高潮等の災害にも備えています。	年2回地域の消防団と消防署を交えて消防の訓練を行っている。連絡網をもとにそれぞれ役割分担、移動方法を細かく設定し訓練を行っている。ハザードマップでは水害と土砂災害となっており、災害リスクがある場合は事前に防潮堤を設置し、災害時には地域消防団や法人内職員と協力体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症であっても入所者一人ひとりの人格を尊重することは基本です。入所時にはプライバシー保護について説明を行っています。入所者の尊厳を守るため生活歴を把握し特に言葉使いに配慮し対応しています。	年1回プライバシーの研修を行っている。利用者の居室は家として捉え、利用者不在でも必ず声をかけて入退出している。利用者へは尊厳を配慮した声かけを行い、意にそぐわない対応をしないようにしている。拒否があれば職員を代えて対応したり、時間をずらすなど介護者主体のケアをしないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にコミュニケーションをもちご利用者の言葉を傾聴し思いをしっかりくみ取る。わかりやすく工夫した話し掛けを行い自己決定出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の性格、行動等を把握し、より良い関係作りに努めています。したい事を体調に合わせて個々のペースで出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容師の経験のある職員がカットをしています。又希望に沿った服を着て頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	年一回の嗜好調査で好みを把握し献立に生かしています。食事の準備、片付け等は出来る人に手伝って頂いています。入所時には好みをお聞きしています。	利用者は簡単な盛り付けなどできる事を役割として担ってもらっている。年1回嗜好調査で職員が聞き取り、職種会議で硬さや嗜好を確認し検討している。月1回おやつ作りでは利用者の希望を聞き、好みのものを作って楽しめる機会を持っている。季節の行事食や差し入れやプランター栽培したものを提供している。	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調を崩された時や食欲不振の時には好きな物(栄養補助食品(メイバランス)等)を提供しています。又主食を粥にしたり、副食を刻み食にしています。定時以外の水分補給の話し掛けや、水分摂取量の少ない方には随時色々な飲み物を提供しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後歯磨き、うがいを個別に行っています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録をとり一人ひとりの排泄状況を把握し、トイレの話し掛け誘導を行いながら自立に向けて支援しています。</p>	<p>トイレは4か所あり、車椅子でもゆっくり乗り移りできるスペースがある。排泄記録表で排泄パターンを把握している。ミーティングなどで職員間で意見を出し合い、パットのサイズやトイレ誘導時間を変えるなど協議する機会を定期的に行っている。実際にトイレ誘導することでおむつ外しができた事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の食事、水分摂取量に注意しながら散歩や体操の話し掛けを行い運動不足解消に努めています。医師の指示により服薬も行っています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご利用者の状況に応じてリフト浴、シャワー浴をする等しています。又季節に応じてゆず湯、レモン湯などを楽しんでいただいています。足浴も週2回行い、入所者の方に喜んで頂いてもらっています。</p>	<p>浴室の大窓傍に桜を植えており春には桜を見ながら入浴ができる。利用者の状況や好みによって一般浴、シャワー浴、リフト浴と入浴形態を柔軟に対応し、重度の方にも利用者・職員とも負担なく入浴できている。週2回の足浴では利用者の好みに応じて入浴剤や柚子、菖蒲、レモンを入れて提供している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの個室を用意し、自宅から馴染みの寝具等を持ち込んで頂き自宅に近い環境で休んで頂かれるよう自由に自分のペースで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	委託医の指示、説明を引き継ぎノートに記入して確認しています。症状の変化等については委託医、看護師と連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者の生活歴に応じて習字、お茶、体操、絵等のクラブに参加する機会を作る。又洗濯物たたみ、散歩、園芸、おやつ作り、やぎとのふれあい等好みに応じて行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には近所の神社に散歩を行い季節の草花等に触れたりする機会を作っています。ドライブを兼ねた月二回の買い物も開始していく予定です。	暖かい日は四季折々の季節の花を觀賞しながらリビング傍のテラスや敷地内の所々にあるベンチでゆっくり過ごせるスペースがある。法人で飼っている山羊の餌やりやプランターにある花や野菜の水やりをしている。暖かくなる3月には近くの神社への散歩を再開予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は月二回の買い物の時はご自分で支払いをして頂いてましたが現在は行っていません。お好きな物をお聞きして職員がおやつ等購入しています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し何時でも電話が出来るようにしています。ご家族との連絡ノートを作成し連絡を密にしています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう自然環境を取り入れ玄関には季節の花を植えたりして季節感を感じられる様工夫しています。リビングは日当たりが良く清潔で明るい空間になっています。	リビングには大きな窓で明るい空間の中で大画面のテレビや四季折々の花を鑑賞できるスペースがある。毎日、日替わりのレクリエーションの場として提供している。紙工作や習字など利用者の作品を展示し、更新時は各自それぞれの作品集として保管している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂は何時でも気軽に過ごせる自由空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には本人の使い慣れた物、大事にされていたもの等を持参して頂き居心地良く過ごせるようになっています。	居室にはベッド、床頭台、クローゼット、下駄箱等が設置している。仏壇やソファなど慣れたものを持ち込むことができ、習字などの作品や写真を飾ったり居心地良く過ごせるよう支援している。隣の部屋とドアでつながっている居室があり、夫婦でも入居し易いよう設備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっており手摺を設置しトイレも随所に設置してトイレ表示も分かりやすく、話し掛けて自立を促し安全に利用出来るようになっています。		

V アウトカム項目(グループ1) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念としては、「和顔愛語、福祉は、愛なり、人なり、心なり」を掲げています。又引き継ぎ時に理念を唱和し理念に沿ったケアが出来る様心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症拡大防止の為、地域の行事参加は難しいですが、面会はパーテーションをして行い、少しずつ緩和しています。運営推進会議も開催できない状況ですが、苑の広報「たちばな苑便り」は地域への配布を行い挨拶や情報交換等行い、地域の一員として参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で中止していた買い物支援やドライブも地域の人々の理解を深めるため出かけていく計画を進めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は行えていませんが、取組等を報告したり、アンケート等を行い、アドバイスを受け、質の向上に努めています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議が開催されず、毎回資料作成し送付させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設特養の勉強会に参加し、身体拘束の無いケアを心がけています。玄関の施錠は必要な時のみ時間を決めて行っています。委員会で身体拘束利用者の検討を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	併設特養の勉強会に参加しています。虐待が見過ごされることがないように注意し、小さな事から防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設特養の勉強会に参加しています。利用者の中に後見人をつけている人もいますので、ご家族と同様に連絡を密に支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分に説明し、質問にはわかりやすく丁寧に対応する事を心がけています。入居前はご本人だけでなく家族の心配や不安も大きいため、できるだけ心配や不安を解消し入居できるよう対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しています。また電話でご家族のご意見をお聞きしながら、解決し納得して頂いています。グループホーム内にジュースの自動販売機を設置したり又希望者には新聞の購読の為配達してもらっています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議、月一回の苑長とのミーティング、職員での毎月のミーティングを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務目標があり達成にむけて主任が指導したり職員同士でアドバイスしたりして、やりがいのある職場を目指しています。各自が助け合って、向上心を持って、いかにモチベーションを保っていかるかも考えて取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量に応じた研修の機会を確保し法人全体で取り組んでいます。又資格修得の促進にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修を通して同業者との意見交換の機会を持ち、課題の見直しをしてケアの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず施設の見学、相談時に不安や要望などを確認し把握したうえで、入居申込や事前訪問を行い、入居環境を整えるようにします。本人、家族とのコミュニケーションを大切にして安心して入所できるようにします。		

自己評価	外部評価	項 目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人、家族の心配や不安、要望等を傾聴し対応しています。入所生活に入り、うまく馴染めるかに重点を置き、担当ケアマネージャー等からも情報を収集しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族、看護師、ケアマネージャー、担当ケアマネージャー、サービス事業所と連携を持ち対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームであるため、入所者の残存機能を生かし、掃除、食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、クラブ、散歩等を一緒に行い本人の出来る事をしてもらい張りのあるその人にあつた支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	以前の様に、面会時にご利用者、ご家族、職員も入り話をよく聞き、お互いの理解を深めていける様緩和をしていきます。家族からの電話は個別に取り次いだり、電話対応を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	中止していた併設特養の行事、クラブ参加、地域の行事、買い物、ドライブ等に参加して顔馴染みの人達と交流を少しずつ図っています。又、生活環境が変わらないように家庭で使っていた寝具等を使用しています。また入所者の思い出話や過去の話は傾聴するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様の性格、行動を把握しより良い関係作りに努めています。共同生活の場、リビングで食事、おやつ、誕生会、レクリエーション、体操等しながら利用者様同士の交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	案内状を出しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを精一杯引き出すように生活歴、対話を密にしたり、個別ケアに努めています。暮らしの中から得られる情報をケアにつなげ利用者主体の暮らしを支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族、居宅サービス事業所と連携を取り、これまでの生活歴や経過、人物像等の情報を収集し職員間で共有し経過などに努めています。職員も担当部屋を持ち、毎月ご家族には状況をお知らせしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌に毎日の状況を記録しています。出来る事、出来た事は継続できるように話しかけています。又、体調変化の早期発見に努めています。毎日同じ時間にバイタルを測定し、体調の変化に気をつけています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、職員、管理者などで話し合い本人が望むことや残存機能の維持向上を図りながら最良のケアができるように計画をたてています。又、その人に合ったリハビリの話しかけを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入所者の日々の身体的、精神的状況や様子、状態、生活状況を日誌、引継ぎノート個別記録に記入しミーティングを行い検討し、計画を立て、見直し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	生活リハビリ訓練、グループホーム①、②合同で誕生会、おやつ作り、レクリエーション等で利用者同士の交流を図り楽しんで頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前は、運営推進会議を通じて民生委員の協力を得たり、消防署の立会いのもとで二か月一回防火訓練を行っていましたが、コロナ禍の為できていませんでした。今後は徐々に行っていく予定です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎日、朝、夕にバイタルチェック、入浴時の身体観察を行い、体調が悪い時には家族に連絡をし、受診の希望があれば併設特養看護師に連絡し、委託医に診察支援を受け、適切な医療を受け、家族に報告し、早期発見、早期治療に努めています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタルチェック、日常生活の関わりの中で体調の気づきを併設特養看護師に伝え、相談し、本人、家族の希望を聞き受診の支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は医療機関に情報を提供し、退院が決まればカンファレンス情報を提供してもらい退院後のケアに備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族にとって最善な終末期ケアが出来る様、併設特養看護師と連携を図りながら家族に事業所で出来ることを説明し、納得いただけたら、家族、職員、看護師と方針を共有し支援に取り組みます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	併設施設の勉強会に参加し、応急処置、初期対応に取り組んでいます。必要に応じて職員を集めて知識・技術の習得に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の消防署の指導のもと併設施設と合同訓練を行っています。年一回の夜間訓練は地域の消防団にも参加してもらって行っています。防潮堤の設置で高潮等の災害にも備えています。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症であっても入所者一人ひとりの人格を尊重することは基本です。入所時にはプライバシー保護について説明を行っています。入所者の尊厳を守るため生活歴を把握し特に言葉使いに配慮し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にコミュニケーションをもちご利用者の言葉を傾聴し思いをしっかりくみ取る。わかりやすく工夫した話し掛けを行い自己決定出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の性格、行動等を把握し、より良い関係作りに努めています。したい事を体調に合わせて個々のペースで出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容師の経験のある職員がカットをしています。又希望に沿った服を着て頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	年一回の嗜好調査で好みを把握し献立に生かしています。食事の準備、片付け等は出来る人に手伝って頂いています。入所時には好みをお聞きしています。		

自己評価	外部評価	項 目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	体調を崩された時や食欲不振の時にはお 好きな物(栄養補助食品(メイバラン ス)等)を提供しています。又主食を粥 にしたり、副食を刻み食にしています。 定時以外の水分補給の話し掛けや、水分 摂取量の少ない方には随時色々な飲み物 を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨き、うがいを個別に行ってい ます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をとり一人ひとりの排泄状況を 把握し、トイレの話し掛け誘導を行いな がら自立に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の食事、水分摂取量に注意しながら 散歩や体操の話し掛けを行い運動不足解 消に努めています。医師の指示により服 薬も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	ご利用者の状況に応じてリフト浴、シャ ワー浴をする等しています。又季節に応 じてゆず湯、レモン湯などを楽しんでい ただいています。足浴も週2回行い、入 所者の方に喜んで頂いてもらっていま す。		

自己評価	外部評価	項目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの個室を用意し、自宅から馴染みの寝具等を持ち込んで頂き自宅に近い環境で休んで頂かれるよう自由に自分のペースで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	委託医の指示、説明を引き継ぎノートに記入して確認しています。症状の変化等については委託医、看護師と連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者の生活歴に応じて習字、お茶、体操、絵等のクラブに参加する機会を作る。又洗濯物たたみ、散歩、園芸、おやつ作り、やぎとのふれあい等好みに応じて行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には近所の神社に散歩を行い季節の草花等に触れたりする機会を作っています。ドライブを兼ねた月二回の買い物も開始していく予定です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は月二回の買い物の際はご自分で支払いをして頂いてましたが現在は行っていません。お好きな物をお聞きして職員がおやつ等購入しています。		

自己評価	外部評価	項 目(グループ2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し何時でも電話が出来るようにしています。ご家族との連絡ノートを作成し連絡を密にしています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い落ち着いた雰囲気でごせるよう自然環境を取り入れ玄関には季節の花を植えたりして季節感を感じられる様工夫しています。リビングは日当たりが良く清潔で明るい空間になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂は何時でも気軽に過ごせる自由空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には本人の使い慣れた物、大事にされていたもの等を持参して頂き居心地良く過ごせるようになっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっており手摺を設置しトイレも随所に設置してトイレ表示も分かりやすく、話し掛けて自立を促し安全に利用出来るようになっています。		

V アウトカム項目(グループ2) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 たちばな苑グループホーム

作成日 令和6年2月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍において運営推進会議が開催できない為、ご家族・外部からの意見が聞きにくい為、サービスの向上に活用されない。	会議を開催し、意見をもらい、議事録をご家族に提供し意見をもらえる様にする。	感染状況をみながら開催を行いたい。又、できない場合は書面をご家族・メンバーに送付し、意見をもらえる様に取り組む。	随時
2	10	コロナ禍の為、ご家族の意見を聞きにくい。	何事も言えるような関係を築き、利用者様・ご家族に満足していただけよう努める。	毎月のおたよりと一緒に意見用紙を送付する。	随時
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。